

ものづくりがたくてジャストシステムへ

じつは、弊社の名前を知ったのは、就職活動をはじめからなんです(笑) 文系で思ったが、ものづくりに関わる仕事をしたいとこの会社、ものづくりができて面白そうだと感じ、入社を決めました。ソフトウェアメーカーですが、文系であることの不利は感じませんでした。というのも、経験の有無に関わらず、入社後に厳しい研修を受け、プログラミング技術などを叩き込まれるからです。入社後には日本語入力システムATOKの開発チームに加わり、2005年からはプロダクトオーナーとしてチームのリーダーを務めています。現在は、人手が足りないときに、たまにプログラミングをすることはありますが、基本的にはプロジェクトの開発企画などを担当しています。

大学で世界が広がった

岡山ですつと育ってきたものですから、大学に入ったこと、それ自体がカルチャーショックでした。なにしろ、全国から人が集まってきたので、岡山弁が通じないことがあるわけですから(笑) いろいろな人と触れ合う中でさまざまな影響を受け、世界が大きく広がったこと、それが大きな収穫です。さらに、さまざまな人と話し、ときには議論して、考えを深める方法を身につけたことも、今の仕事に役立っています。プロジェクトを進行していくうえで、議論して考えを深めていくことはとても重要ですから。

岡大異ベンチャーな人紹介

竹原 宗生さん

(株)ジャストシステム ATOKプロダクトオーナー

国産オフィスソフトの代表的メーカー・ジャストシステム。ここでパソコン用日本語入力システムの草分け「ATOK」のプロダクトオーナーとして活躍する竹原宗生さんに学生時代の経験と現在の仕事にかける情熱を語っていただきました。

この仕事をずっと続けたい

ATOKを発売すると、それを使われたお客様がブログなどに感想を書かれます。褒められることもあり、叱られることもあります。そのどちらかであっても、モチベーションアップにつながります。というのも、感想を寄せてくれるということは、真剣にATOKを使っていただけているという証拠であり、たとえ叱られたにせよ、それは激励の言葉にほかならないからです。自分の作った製品のユーザーの生の声を聞けること、そのことにとてもやりがいを感じます。だから、この仕事がとても気に入っています。で

きれば、このままATOKの開発に携わり、お客様がパソコンを使われるときに、何の不自も感じずに日本語入力を行えるようにATOKを改良し続け、社会に送り出していきたいと考えています。

現在、いくつかのメーカーから日本語入力ソフトが発表され、競争が激化していますが、むしろチャンスだと捉えています。日本語入力ソフトが話題になることで、ATOKにも注目が集まり、その優位性をアピールすることができるようになります。それに、世間に注目されることで、「よし、やってやるぞ」とモチベーションもアップします。

出会いを大切に

卒業した今だからこその言えることですが、学生時代に必要なのは、勉強することです。今はインターネットなどで容易に情報を見つければいいから、できるだけ早いうちに目指すべきものを見つけ、それに向けて勉強すべきだと思えます。とはいえ、若いうちはいくらでもやり直せますから、見聞を広め、興味関心の枠を広げておくことも必要です。それから、人との出会いを大事にしてください。岡大に来なければ出会えなかったであろう人との出会い。それは人生における財産ですから。

▶竹原 宗生 (たけはらのりお)
1970 (昭和45)年、岡山県備前市生まれ。
1992 (平成4)年本学経済学部卒業。同年、(株)ジャストシステムに入社。日本語入力システムATOKの開発に携わり、2005 (平成17)年、「ATOK for Windows」のプロダクトオーナー (開発責任者) に就任。